

平成21年度 終了評価書

研究機関 : エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)、三菱電機(株)

研究開発課題 : 情報家電の高度利活用技術の研究開発

研究開発期間 : 平成 18 ～ 20 年度

代表研究責任者 : 高杉 英利

■ 総合評価(SABCD の5段階評価) : 評価A

■ 総合評価点 : 46点/60点

(総論)

期待以上の優れた研究成果が得られた。

(コメント)

- 管理技術、認証技術、管理制御技術、デバイスソフト配信技術、ソフトの最適化技術、セキュア配信技術等において、興味深い研究成果をあげたと評価する。
- いくつかのフォーラムを通じて情報共有を図りながら当初の目標を上回る多くの優れた研究成果を挙げるとともに、国際標準化、プロモーション活動、実証実験等極めて積極的な普及・広報活動を行っている点が高く評価できる。
- 目標の設定と成果の達成度、展開、波及効果、普及促進策など、全体的に十分期待にこたえる成果が得られたと考える。
- 要素技術ごとの完成度はもちろん、統合システムとしてのパッケージングの完成度を高く評価した。

(1) 事業の目的および政策的な位置付け

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 8点

(総論)

事業目的は現時点でも妥当性があり、政策的な位置づけも明瞭であり、国が推進すべき重要な事業である。

(コメント)

- 情報家電のセキュアな接続を実現し、その高度な利活用を図り、ユビキタスネット社会を実現する上で不可欠な極めて重要な研究。
- e-Japan戦略やIT新改革戦略等の政策に適合し、その実現に不可欠な技術開発である。安心・安全で快適な生活を実現するために社会的・経済的意義が大きい。
- 各課題の難易度自体はそれほど高くはないと思われるが、産業・経済活動の活性化という視点からは今まさに旬のテーマであり、標準化を競うという視点からも国主導の下、推進すべき事業である。

(2) 研究開発目標

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 8点

(総論)

設定目標は現時点でも妥当性がある。さらに、社会・経済情勢の変化等を見通し、進歩的な目標へ修正を行うなど適切な対応が行われ、優れた点が認められる。

(コメント)

- 高度利活用を図る上で基盤となる認証情報の自動連携や情報家電ソフトの効率的な更新・配信技術等、要素技術の確立を狙っている点が評価できる。
- 垂直統合ではなくて水平分業的な環境を志向している点がユニークである。
- 2件の技術課題の研究開発目標は情報家電の高度利活用の基盤となる要素技術であり、事業目的に適合し、適切に設定されており妥当である。メーカーの囲い込み戦略である「垂直統合モデル」の打破を目指しており、多くの企業の新規参入、創意工夫が期待できる。
- 各設定課題における研究開発目標に関し、年度ごとの中間評価結果を踏まえた適切な目標の修正がなされており、最終的な目標の設定も、社会・経済情勢に適応したものとなった点を評価した。

(3) 研究開発マネジメント(費用対効果分析を含む)

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 7点

(総論)

適切かつ効率的な研究開発マネジメントが行われたと認められる。さらに、独創的な取組等によってマネジメントの改善が図られるなど、優れた点が認められる。

(コメント)

- 2社間で明確な役割分担を決めて研究を進め、最終年度に2社間で密な連携を図った点は、それなりに評価できる。
- 当初設定したスケジュールどおりに計画が実行され適切にマネジメントが行われたと認められる。標準化活動や国際的プロモーションもなされ、ホームネットワークWGや各種公開を通じた普及活動も適切に行われている。
- 各設定課題における研究開発目標に関し、年度ごとの中間評価結果を踏まえた適切な目標の修正がなされていた点を評価した。

(4) 研究開発成果の達成状況

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 8点

(総論)

計画どおりの成果が得られ、かつ、一部に進歩的な成果等が認められる。

(コメント)

- 認証情報の自動連携や家電用ソフトのダウンロードによる更新・トラフィック削減手法(reliable multi-cast)等、独創的かつ優れた成果が多々見られ、当初の目標は十分達成されている。
- 全ての研究項目において計画通りの成果が得られ、一部目標を超えた成果もある。
- 関連特許の出願数が14件あることを評価した。また、課題項目ごとの達成度(自己評価)が100%であることから、研究開発に関するマネジメントが適切なものであったことが推察できる。

(5) 研究開発成果の展開および波及効果

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 8点

(総論)

成果の高い実用可能性が認められるとともに、当初想定された以上の波及効果を得られる見込みがある。

(コメント)

- 国際標準化活動(ITU-T SG15)への貢献、国際会議でのプロモーション、フィールドでの実証実験などを極めて積極的に行ってきたことが高く評価できる。
- 情報家電におけるダウンロードによるバグフィックスやアップデートが可能になり実用的に高い波及効果が見込める。
- 標準化活動での貢献、3件の実証実験の実施、ソフトウェア配布の実績、各種評価実験を通じた成果普及促進活動等を評価した。また、Q&Aの中で、導入過程とそれに伴うコストについても言及していた点は、高く評価できる。

(6) その他(広報活動 等)

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 7点

(総論)

優れている。

(コメント)

- 研究成果をソフトウェアとして配布しているほか、展示会、学会、研究会等での展示・公表やプレス発表等が多数報告されており、積極的な成果広報活動の実施が認められ、高く評価できる。
- 論文発表がやや物足りないが、特許取得、標準化提案、報道発表、成果発表会など積極的な広報・普及活動を行った。